

出張報告書

令和 7年 8月 4日

議長 烏野隆生 様

会 派 名 大阪維新の会

代表者氏名 中岡 佐織

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 アーバンスポーツパーク整備、指定管理者の運営方針等について
- 2 出張先 1日目熊本県菊陽町役場視察（アーバンスポーツパーク整備）
2日目小倉城視察（指定管理者の運営方針等）
- 3 出張期間 令和 7年 7月 28日～令和 7年 7月 30日
- 4 出張者氏名 中岡 佐織
- 5 てん末報告 別紙①、②

別紙①

【くまモンアーバンスポーツパーク 視察報告書】

■ 視察日

2025年7月29日（火）10：00～12：30

■ 視察先

菊陽町役場・現地

視察対応：菊陽町教育委員会スポーツ振興課

■ 調査の目的

菊陽町が整備中の「くまモンアーバンスポーツパーク（菊陽杉並木公園拡張）」の整備状況と、周辺地域開発・交通整備との連携状況を現地で確認。

アーバンスポーツを通じた交流人口の拡大、地域経済の活性化、青少年育成との関連性を調査。

■ 地域背景と施設概要

菊陽町は、世界的半導体メーカーTSMCの進出によって注目を集めている町であり、TSMCとソニーなどによる合弁会社「JASM（Japan Advanced Semiconductor Manufacturing）」が工場を稼働。第2工場の建設も予定されています。

（「Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社」（JASM）は、専門ICファウンドリビジネスモデルの先駆者であるTaiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited（TSMC）が過半数を出資し、熊本県に設立した子会社です。TSMCにとって日本初となる工場で、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社、株式会社デンソー、トヨタ自動車株式会社が少数株主として参画する合弁会社。幅広いプロセス技術により、車載、民生、High Performance Computing等の用途向けに先端スペシャリティ半導体の受託製造サービス。）

それに伴い、国内外からの高度人材・家族の流入が加速しており、町は人口増と都市基盤の整備が同時並行で進行中です。JR新駅の整備や区画整理も進んでいます。

また、菊陽町は2025年度より地方交付税の不交付団体となっており、潤沢な税収と強い財政基盤を背景に、アーバンスポーツを含むまちづくりへの積極投資を行っています。

■ アーバンスポーツパーク概要

- ・ 総面積：約15,000㎡、西日本最大級の規模
- ・ 競技内容：スケートボード、BMX、パルクールなどアーバンスポーツはもちろんフラットスペースが多いので色々な可能性がある
- ・ 大屋根があるので雨天も対応（バスケットコート約2面分）
- ・ 設計監修：東京オリンピックのスケートボード会場も手がけた「カリフォルニアスケートパークス社」
- ・ 開業予定：2026年春
- ・ 連携体制：熊本県と2024年3月に「アーバンスポーツ推進に関する連携協定」締結
- ・ 整備目的：大会・合宿誘致、人材育成、地域交流促進
- ・ 補足：全国から来場する競技者向けに車中泊対応施設の整備も検討中
- ・ 隣接施設：菊陽町総合体育館（防災倉庫併設）、温泉等施設「さんふれあ」

■ 視察内容

- ・ 建設中の施設の配置計画、導線、安全対策の説明を受け、現地の整備状況を確認
- ・ JR新駅との接続や、企業・通勤動線との調和についても説明を受けた
- ・ 全国からの来訪者を受け入れる車中泊スペースについて、防犯・衛生・騒音などの観点から、ルール整備と運営体制の明確化が課題として共有された
- ・ 外国人居住者や選手への対応も想定されており、今後は多文化対応も求められる

■ 評価と課題

【評価ポイント】

- ・町の戦略的まちづくりとスポーツ施設整備が一体的に進行
- ・不交付団体となった強固な財政力による安定した都市投資
- ・スポーツツーリズムに対応する先進的な姿勢
- ・西日本最大級の施設による観光・経済効果、競技力向上の期待

【課題と留意点】

- ・スケートボード利用時の騒音、交通、安全などの地域共生への配慮
- ・車中泊施設の運用ルールの方策（時間帯、清掃、防犯、マナー）
- ・多言語案内、災害時対応など外国人来訪者へのサービス整備
- ・イベント時の交通計画のすみ分け・調整

■ 今後の展望など意見交換

（現在のところ住民説明会においても住民の反対はほとんど無い）

【施設運営】

・指定管理者、地域連携、青少年育成等、サイクルピア岸和田BMXコースを運営してきた経験について

【車中泊施設】

- ・イベント時限定利用、清掃・警備体制、利用ルールについて

【地域理解と住民協力】

- ・住民説明会、体験会、パーク来場時の利用者マナーについて

■ 総括

くまモンアーバンスポーツパークは、スポーツ振興とまちづくり、国際交流、観光振興、若者育成を融合した新しい公共施設として整備が進められています。

TSMC(JASM)の進出に伴い、菊陽町は「日本一のまちづくりを目指せる町になった」という自信と責任を持ち、まち全体に力強い成長戦略が感じられました。

特筆すべきは、同町が地方交付税に頼らない不交付団体として、財政的に自立した自治体運営を行っている点です。企業誘致力や財政的基盤を活かし、道路や子育て・教育、スポーツ施設など、次代を見据えた公共投資も着実に進められています。

また、町の構造的課題である交通渋滞についても、「パークアンドライド」などの新たな方策を含め、国・県との連携を重視しながら多角的な解決策を講じている点は、都市成長と住民生活の両立を図る姿勢として参考になります。

なお、施設の指定管理者は今後選定され、2025年9月議会で決定予定であることから、完成後の運営方針や実際の運用においても注視すべきと感じました。

本パークが開業した際には、再度現地を訪問し、完成施設の運用状況や地域への影響を直接確認したいと考えています。

今回の視察を通じて、岸和田においても、BMX・競輪場・スケートボードパーク・屋外バスケットコートなどの地域資源を活かした「都市型スポーツ文化」と、青少年育成や健康増進、また観光客を呼び込む新たなスポーツ施設としての磨き上げをセットで再認識・再検討することが、まちの魅力向上に寄与する可能性があります。

また、菊陽町が急成長の中でも「住民との調和」や「生活都市としての質」を重視し

ている姿勢は、岸和田の歴史と伝統を守り郷土愛を大切に作る心と通じるものがあります。

地元住民の誇りや文化を活かしながら、新たな成長ビジョンを描いていくことが岸和田にも求められると感じました。

別紙②

【小倉城 視察報告書】

■ 視察日

2025年7月30日（水）14：00～17：30

■ 視察先

小倉城（福岡県北九州市市役所内含む）

視察対応：指定管理者 TEAM城下町小倉共同事業者

■ 視察目的

城や石垣の保存と活用の両立を図りつつ、観光資源として最大限に引き出している先進事例として、小倉城を視察。エンターテインメント性のある運営や体験型観光、地域経済との連携、デジタル広報などの先進的な取り組みを学び、今後の地域資源の活用に活かすことを目的とする。

■ 視察内容

小倉城では、「日本一おもしろき城」を掲げ、来訪者に驚きと感動を与えるエンターテインメント型の城郭運営を展開しています。以下のような特徴的な取り組みを現地で確認しました。

① 空間演出による“非日常体験”の工夫

城の敷地に一歩足を踏み入れた瞬間から、五感を刺激する空間演出が施されており、視覚・聴覚・触覚に訴える演出がなされています。屋外には防水スピーカーが設置され、来場者が列に並ぶ時間も音やナレーション、BGMによって飽きさせない工夫が凝らされています。

また、入口付近に設置された大量の風鈴が風に揺れ、爽やかな音を奏でて来場者を出迎えており、これがなんと岸和田城の取り組みを参考にしたものであると聞き、大変嬉しく感じました。

② 天守閣内でのカフェや飲食店営業

歴史的な天守内部にカフェを設けることで、訪問者は城内で飲食しながら歴史を感じることができ、特別な時間を過ごすことが可能となっています。景観と相まって、高い満足度を生んでいます。

③ 夜間営業やBAR運営

毎日夜間も営業を行っており、ライトアップされた城と共に幻想的な空間が演出されています。特に土曜日の夜には天守がBARに変わるという大胆な取り組みも実施されており、若者やカップル層など新たな来訪者層の開拓に成功しています。

④ 俳優による武将隊の常駐

小倉城には専属の「武将隊」が在籍しており、歴史上の人物になりきった俳優たちが演武やガイド、観光客との交流を通じて、歴史を“体験”として提供しています。観光資源と人材の融合によって魅力が倍増しており、SNS映えの観点からも大きな役割を担っています。

⑤ 貸切イベントの柔軟な対応

結婚式や企業イベント、地域行事などの貸切対応も可能。柔軟な施設運用が収益性を支え、地域との繋がりも深めています。

⑥ 体験型展示とユニークイベント

展示物は一方的に“見る”だけではなく、甲冑体験や映像演出、子ども向けの参加型コンテンツなど、来訪者が歴史と「対話」できる仕組みが随所にあります。

⑦ しろテラスでの地域発信・物販

敷地内にある「しろテラス」では、観光案内・休憩・土産購入などが一体化されており、訪問者の満足度を高めるとともに、地元産品の販路としても機能しています。（地元製品だけでなく日本中の和製品のセレクトショップにもなっている）また、武将グッズやオリジナル商品も豊富で、購買意欲をそそる仕掛けがありました。

⑧ SNSを活用した情報発信

小倉城は公式SNS（インスタグラム、X、Youtube他）を通じた発信にも力を入れており、武将隊の動画、イベント告知、来訪者との交流の様子などが多言語で日々発信されています。珍しいSNSとして、小紅書（シャオホンシュー）という中国で人気のSNS中国版InstagramやPinterestとも呼ばれているSNSも活用していました。

どれも来場前から期待感を高める仕掛けとなっており、広報と集客の両輪として機能していました。

⑨ 清掃・ポスターの貼り方のぼりの配置・草木の剪定などの美観管理や来場者への心配りの徹底

敷地内は非常に清潔で、草木の手入れも行き届いており、訪問者にとって快適で安心な空間となっています。また場内で落とし物などを発見した場合スタッフ間のグループチャットなどで共有し直ちに対応できるようにしています。こうした“見えない努力”が城のブランディングを支えていることも印象的でした。

■ 総括

● 所感

小倉城は、「歴史を守る」だけでなく、「いま楽しむ」「未来につなぐ」観光資源として高次元で運営されている城郭施設であり、他の自治体・地域資源にとってもモデルとなる存在です。

特に、SNSや五感を活かした空間演出、ナイトタイムの活用、民間との柔軟な連携といった点は、岸和田市が今後文化観光を推進するうえで大いに参考となるものでした。

● 今後の活用に向けた本市への提案

・岸和田城や周辺文化施設も、視覚・聴覚・体験を意識した演出や夜間活用を検討することで、より多様な層へのアプローチが可能となる。

・風鈴やスピーカー演出など、身近な素材や仕掛けでも空間を劇的に変える工夫ができる。

・武将隊など人材による体験演出の導入、SNS戦略の強化は、現代の観光誘致に不可欠。

・土産物選定、観光案内、休憩、スタッフ対応等サービス強化。

・美観維持と施設管理の徹底が、訪問者の満足度向上とリピーター創出に直結する。